

【令和5年度】デジタル田園都市国家構想交付金（地方創生推進タイプ）

事業名：四万十川の保全と資源活用による地域活性化プロジェクト

個別事業

- ①四万十町産アユ活用事業
- ②地産地消外商推進事業
- ③四万十川PRツール作成・利用事業
- ④受入態勢整備促進事業
- ⑤水産資源回復事業
- ⑥環境対策事業
- ⑦景観保全事業
- ⑧川ガキ育成事業
- ⑨高知大学連携事業

■四万十町総合振興計画審議会からの意見

- 令和4年度から令和5年度にかけて、アユの漁獲量が多いので好ましく思う。
- アユの漁獲量が30年前と比べ半数以下に激減していることは、実施にアユ釣りをしている人たちの話を聞いたりしているのか。四万十川で現場を経験している方の意見は貴重であるし、何か新たな情報を得ることができるかもしれないと思う。
- BSの「魚が食べたい」の放送後、アユの通販が激増したと聞く。有名グルメタレントを招待したらどうか。
- 土佐清水市で川をプールのように区切り、子どもに解放する試みがある。安全で楽しいことから、体験イベントでこの試みを使えないか。
- 四万十川の保全が声高にさげられるあまり、本来の多くの資源の活用という面が、かなり後ろからついてきているのではないかと。例えば、窪川地域に多くあるため池やその周辺の景観、支流を含めた沈下橋、それぞれの落差を持つ滝、各支流の源流点の最初のひとしずく等、視点を広く大きくしてみれば、多様な顔があることが理解できると思う。それらの観光化も今後必要になってくると思う。
- アユ以外にカニ、ウナギ等があるので、売上の的にはもっと大きくなるとわれ、当然の帰結として波及効果も大きいものと思う。
- 「四万十町産アユ活用事業」について、小・中学校への給食及び県外イベント等へのアユの提供は、地元四万十川流域の資源に触れる良い機会になっていると思う。県外では、高級品とも言えるアユを、小・中学生一律に食べられるのは、四万十町独自の恩恵と言える。特に、アユはいくら地元の産品でも好みに左右されて、家庭では食べる機会自体が無い（又は少ない）場合もあるのではないかと。
- 資源を活かす取組としてや業績評価について、アユの漁獲量が激減とあるが、この要因を具体的に示していただくと取組内容の意図が伝わりやすいと思う。例えば、アユ自体が減っているのか（水質や四万十川の問題）、アユを獲る人が減っているのか（漁獲側の問題）、アユを食べる人が減っているのか（消費側の問題）など、その他の事業においてもKPIとは別に各事業で得られた数値などを示していただくと分かりやすいと思う。
- KPI（重要業績評価指標）の②について、「関連観光客」がどのような人を指すか分からないが、数字が差どころに違いが多いと思う。宿泊者数と分けて捉えた方が良い気がする。同様の理由で、KPI④の数字も合算するのはいかがなものかと思う。逆に、KPI①はゴール設定の理由も道筋も分かりやすく良いと思う。目標額との差が大きいので、どう方向修正するのが大切だと思う。

事業名：三島キャンプ場リニューアル整備事業

■四万十町総合振興計画審議会からの意見

- 四万十川に観光にきた県外客に立ち寄るよう、インターネットなどで宣伝したら良いと思う。
- ロケーションも三島キャンプ場がリニューアルされることによって、新たな客層を呼び込めるのではないかと期待している。三島とは関係がないが、グランピング（某キャンプ場）に興味を持っている。天気が悪くても、手ぶらで、手軽に非日常を楽しめるところが良い。最近では、高齢者のグループも利用しているようだ。
- 四万十町公式サイトで見る三島キャンプ場のロケーションは素晴らしい。個人的にも利用したい。また、町外の知人にも紹介したい。利用者の増加を図るには、レンタルカヌーや川遊びがポイントになると思う。町民割引は嬉しい。
- 四万十川水系の中で最も大きな中州として、大きな観光資源であることは間違いないと思うが、各目標値に対する実績値が概ね3分の1以下となっており、外への広報活動にある程度問題があるのではないかと感じる。リニューアル後なので、今後の変化に期待をしたい。
- 施設の整備後から1年以上経過していないためかと思うが、KPIの実績値が無いため事業の効果は分からない。令和6年度の途中まででも実績値を示してもらえると、事業評価の意義があると感じる。ただ、この整備事業による効果が出ることを期待したいと思う。関係人口や移住者の増加とあわせて、町外だけではなく、町内の交流人口の増加にもつながる可能性があると思う。特に窪川地域の方にとっては、同じ町内でも十和地域に馴染みがない場合があるので、例えば三島キャンプ場の閑散期等を活用して、小学校の遠足や宿泊体験先とするなど、また、体験メニューを通じて町内での文化交流の場になると思う。
- KPI③の補足説明が違っているのではないかと感じる。公的機関の成果をはかる仕組み上仕方のない部分もあると思うが、もう少しシンプルに考えても良いのではないかと感じる。利用者が5%ずつ増えて、その10%が体験者数の目標値と、その8%がこの町に関わりたい（満足度）となると、結局は利用者数しだいとなるので、利用者数と売上の2つだけでも十分なのではないか。大事なものは、その売上額が町の財政上健全な値なのかどうかだと思ふ。